

# 1. 各企業からの報告

## [1] 地域に根差したESD 未来の子どもたちのためにSDGs



### 百瀬 則子

(一社)中部SDGs推進センター副代表  
元ユニー株式会社上席執行役員CSR部長

本日はESDの事例紹介なのに、なぜSDGs推進センターの私が来ているのかということですが。。私は名古屋にあるスーパーマーケットのCSR部部長を勤め、そこで地域に根差した「お買い物で地球を守る」をテーマに環境教育を実施し、2015年以降はSDGsの

達成を目指したESDによる人材育成に取り組んでいたからです。

2014年に愛知・名古屋でユネスコのESD会議がありました。単なる環境教育ではなく、ESDについて学び、それを次の世代の子どもたちに伝えるために、地域のNPOや市民ボランティアと協働で、主に持続可能な消費について店舗で活動していました。

現在はSDGsという2030年までの世界の目標達成を目指して中部SDGs推進センターという小さな団体を立ち上げ、中部地方を中心に活動しています。また、ワタミ株式会社で、SDGs推進本部長として、企業の中で2030年までに持続可能な社会に少しでも近づけるように活動しています。

最初のスライドに、「企業が市民・NPOとつながり、地域課題の解決を目指す持続可能な消費が地球を守る」とあります。私がスーパーマーケットで子どもたちや一般市民の方たちと一緒に進めていたのは、持続可能な消費です。私たち消費者は、ものを買うことで、産地の環境・つくった人の生活やその商品そのものが地球環境に与える影響や、その商品を使い終わった後、廃棄物になるのか、リサイクルされるのか等を選んでいきます。持続可能な社会に私たちが毎日いつでも関わるとしたら、持続可能な消費が一番近いのではないかと、次世代を担う子どもたちのために、そのような知識と経験を積んでもらってきました。

子どもたちには、SDGsとは何か、持続可能な開発のための教育(ESD)とどういう関係があるのか、ということ「私たち大人の世代だけでなく、あなたたちの世代、次の世代の人たちにも資源を残し幸せに生きてもらうために、私たち大人は持続可能な開発をしようと思っている。」と言っています。そのためには資源を食いつぶしてしまうような、あるいはプラスチックの海洋汚染で私たちの大切な自然を直すことができないように破壊してしまうことがないような暮らし方、消費をしていかなければいけない、ということを体験学習の中で伝えています。



それは、ESDの3本柱(上図)である経済、環境、社会の両立です。特にスーパーマーケットの中では、その3つの中で「ものづくり、ひとづくり、コミュニティづくり」を具体的なテーマにしました。

「ひとづくり」ということでは、私たちスーパーマーケットが子どもたちや一般市民にどんな商品を買ったら環境にいいのか、持続可能な消費とは何なのかと伝えるよりも、市民が市民に伝えられるような活動をしていこうではないかということで、市民インタープリターを育てました。

「コミュニティづくり」では、いま社会で一番大きな課題になっている防災の問題、災害が起きたとき、スーパーマーケットの存在が地域の緊急避難所としては役に立つのではないかとということで、自治体や地域のNPOボランティアと協働で体験型防災イベント「あそぼうさい」を開催しました。それから、高齢化社会の問題です。外出することが億劫になった高齢者でもスーパーマーケットでのお買い物は大好きだそうです。そういった地域の中で課題になっていることを、スーパーマーケットの活動の中で克服できないかと考えました。

それから、「ものづくり」です。スーパーマーケットで売っているものは誰がつくっているのか。どうやって運ばれてきているのか。どうやって使われているのか。どうやって消費され廃棄物になるのか。もしくはリサイクルされるのか。それらに関わることを若者たちと一緒にやってみました。このことについて、今日は説明したいと思います。

スーパーマーケットには楽しい秘密がいっぱいです。「お店探検」(次頁図)で子どもたちと一緒に体験型学習を行いました。例えば、私たちが買って飲んでいるジュース、牛乳、ビールのパッケージはその後どうなっているのか。スーパーマーケットではこれらを集めてもう一度資源化しています。子どもたちに、「あなたが飲んだ牛乳のパックを持ってきてね。それはリサイクルされ、お店のトイレットペーパーになっているのよ」「あなたが持ってきた牛乳パックで今日はお尻が拭けたね」な

## 環境にやさしい買い物で地球を守る

### ユニーのESD……次世代を担う子どもたちといっしょに3R

#### エコロお店探検隊

店長を探検隊長にして、地域の子も達が店内を探検しながら、お店の環境保全活動や、環境にやさしいお買い物を学びます。

<p><b>リサイクルの秘密を知ろう</b> 使い終わった容器の行方を見学!</p> <p>家庭から排出される容器包装をリサイクルステーションで回収しています。回収することで、ゴミではなく新しいものに生まれ変われることを伝えます。</p> 	<p><b>地球にやさしいお買い物をしよう</b> 環境ラベルの意味を学ぼう!</p> <p>子ども達が身近な文房具に付いている環境ラベルを探します。普段使用している下書きやノートにも、リサイクルされたものや環境にやさしい素材で作られたものがあります。</p> 
<p><b>お店の裏側を探検しよう</b> お店から出るゴミの行方を知ろう!</p> <p>店舗の裏側を見学します。店舗から出るゴミは19種類に分別し、計量しています。計量することで、ゴミを減らすよう意識を高めます。また、折り畳み式のコンテナを使用し、段ボールの使用抑制に取り組んでいます。</p> 	<p><b>エコ工作にチャレンジしよう</b> 使わなくなったものを材料にした工作体験!</p> <p>通常なら捨てられてしまう容器包装などを使用したり、自然の素材を使ったエコ工作を行います。捨ててしまえばゴミになってしまうものも工作で生まれ変わります。</p> 

んて言うと笑っていましたが、資源循環はとても身近なことなのだとこのことを、ここで学んでもらいました。また、子どもたちを文房具売り場に連れていき、エコマークがついていたり、再生紙マークがついていたりするものを買うことで、自分たちが自然を守りながら、もしくは資源を大切にしながら文房具を選ぶことができることを学びました。実際、お店に行って商品を手にとってみることは、なかなかいい体験でした。それ以外にもお店の廃棄物はどうリサイクルされるのか。みんなが持ってきたペットボトルや牛乳パックを使って工作をしたり、紙漉きをしたり、そういう体験の中で、スーパーマーケットの中でだって持続可能な社会は目指せることを子どもたちに体験して学んでもらいました。体験学習を実施するとき、その指導者をインタープリターと呼んでいます。市民ボランティアをインタープリターに育成することもしました。(次頁図)

そして、お買い物で地球を守るというESDプログラムですが、毎日のスーパーマーケットで自分たちは何を選んだら地球にやさしいのか、何を選んだら生産者を守ることができるのかを知る。そして、興味を持ち、それを買いたくなり、誰かに言いたくなる、そういう体験型学習です。

お店の中で子どもたちを指導するインタープリターを市民の中で育てました。中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)、企業や自治体、市民とパートナーシップを組んで活動しましょうというということで、環境省中部地方環境事務所が運営する事務所を中心に、インタープリターの教育をしました。そして、なごや環境大学という名古屋市がスポンサーになっている市民講座の中で、そういう環境活動を行ったことのある人が今度は運営にまわり、インタープリターになるという活動も継続して行われています。

市民のインタープリターは何がいいのかというと、一つはお店や専門家が子どもたちや市民に伝えるよりも、市民が市民に伝えるほうが心に刺さる、共感できる、ということです。市民の方に、まず

## 環境にやさしい買い物で地球を守る

### 地球エコ防衛隊（市民インタープリターによるESD）

#### インタープリター養成講座の卒業生の中で活動したい人が 市民インタープリターになります



卒業生は活動するためのスキルを身に付けるブラッシュアップ講座を受講しています。  
「伝え方」を学びます。  
人に伝えることで、自分の理解が深まります

10

は環境教育を受けてもらう。今度は自分たちが環境教育をする側になる形でインタープリターを育てます。講座の卒業生たちは活動するためのスキルを学びます。例えば自分たちはどうやったら人に伝えられる言葉が出せるのだろうか。どうやったら人に分かってもらえるプログラムを組めるのだろうかといったスキルです。そのためにブラッシュアップ講座という、卒業生のためにインタープリターになるための講座を開き、そこに専門家を呼んできて、伝え方や知識、技術などのスキルを学んでもらう。学んでもらった卒業生たちが次に伝える人になっていくという活動で、市民インタープリターたちは自治体やお店の中の活動リーダーになり、活躍してくれました。

市民インタープリターたちが活躍してくれて、イベントが活発になりました。そしてたくさんのお店が地域の活動の拠点になり、さらにインタープリターが地域で活躍することができました。その成果は何よりもインタープリターたちが言った言葉です。「消費者が消費者に伝える力」「選択で未来が変わる」「家庭・仕事以外の学び」「世界が広がった」「収穫の喜び『新鮮をまるかじり』」「全く知らない人と仲間になれた」「SDGsを知ることができた」というように、ひとつづくりに参加すると自分も成長できることを知りました。

このインタープリター育成事業ですが、スーパーマーケットの中で活動するので、最初はスーパーマーケットを運営する企業スポンサーになっていました。しかし、その企業が他の企業に吸収合併されてしまい、なかなかそういう活動に資金が出せなくなってしまいました。そこで自分たちが地域の中に飛び出し、現在はスポンサーなしで活動をしています。10年間かかりましたが、市民の中に市民に伝える力を持ったインタープリターが誕生しました。彼らは今でも自治体お店の環境学習でインタープリターとして活動を継続しています。

こちら(次頁図)は防災についての活動です。お店防災イベントで、ゲームや疑似体験をともし



て災害に遭ったときにどうやったら自分の身が守れるのか、どんな準備が必要なのかを知る「あそぼうさい」です。防災や避難所運営のNPO、レスキューストックヤードに指導してもらっています。子どもたち向けのプログラムを作り、地域のお店で開催しています。

先々週はインタープリターの炊き出しの学習会でした。災害が起きたときには、地域で炊き出しをしなければいけないので、炊き出しの訓練をしようということです。このインタープリターたちは、下は10歳から上は75歳の方たちです。地域で炊き出しするときにはどうしたらいいのか。炊き出しただけでは利用する人は集まらない。どうやって避難者にお知らせすればいいのか、専門家に聞きながら学びました。このインタープリターの活動は、「自分たちが伝えた人が今度は伝える人になる。」順送りです。自分たちが地球を守る、持続可能な社会をつつていく担い手になるのだということで活躍しています。

もう一つ、地域の企業と若者・障がい者がパートナーシップを組んで商品を作り、消費者が購入するというので、地域が繋がるESD、リデザインプロジェクトを紹介します(次頁図)。地

元愛知、三重、岐阜は繊維産業が盛んです。生地や服をつくっています。そういったところの倉庫には、色が違う、ちょっと傷がついているという未利用素材がたくさん眠っていて、普通は捨てられてしまいます。それをもらってきて、デザイン学校7校の学生たちとデザインコンテストをして、要らなかった素材ですてきな作品をつくってもらいました。その作品の中で何点か選ばれたものを、障がい者施設の人たちで商品化し、それをスーパーの店舗で販売する、というプロジェクトです。

このプロジェクトをリデザインプロジェクトと名付け、10年間継続しています。

このプロジェクトに参加する学生たちがデザインするときには、障がいを持った方につくってもらうということで、制約があります。例えば、障がいを持った方は直線縫いしかできません。ボタンホールがつけられません。そういう決められた技術の中で、いかにすてきなものをつくるか考えます。また、製作に参加した障がい者にとっては就労機会の創造にもなります。参加した障がいを持った方

## 「お買い物」が社会を変える

### リデザインプロジェクト（地域循環共生とESD）

#### ◆世界をお買い物でハッピーに

「地球」「若者」「障がい者」がお買い物を通してつながりあう



25

私たちは、「自分のつくったものがスーパーマーケットの売り場に並ぶのは嬉しい、そして誇りだ」と言っていて喜んでくれました。

こういった活動を通して、地域の要らなかった素材が学生たちのアイデアやセンスにより商品化され、地域の障がいを持った方たちの就労機会にもなり、それが誇りを生むことにもなります。それを買ったお客さまは本当の意味でのフェアトレードだと思います。彼らのつくったものの価値を認め、彼らの誇りを大切に、買うことで誰かに喜びを与える、そういうESD活動になっています。

次頁上図(左写真)に並んでいるのが入賞した学生たちです。前のほうに並んでいるのは、障がい者施設で実際に商品をつくっている人たちです。こういった形で売り場を展開しています。リデザインプロジェクトは地域の要らないものを生かす。そして、若者の力を生かす。障がいを持った方たちのつくる喜びをつくる。買う人はそれらの活動の最後の役割を果たす、そういうESD活動です。

遊んでいる子どもたち(次頁下図)は陸前高田の保育園の子どもたちです。リデザインプロジェクト商品の収益金の一部で陸前高田の保育園に毎年クリスマスにおもちゃを送っています。素材を出してくださった方、デザインをしてくれた学生たち、つくってくれた障がいを持った方々、それを一生懸命売ってくれたお店の人、買ってくくださったお客さま、そういった全員の気持ちが、こういったプレゼントにつながっています。スポンサー企業だったスーパーはこの活動のスポンサーから降りましたが、現在は地域に飛び出し、地域の活動として継続することができています。

私の今日の話のポイントは二つです。一つは、市民が市民に伝えることが、ESDを推進するにはすごく大事だということ。もう一つは、いろいろな主体がパートナーシップを組んで地域の中のESDとして活躍するという。特に全く不要だったものがすてきなものに生まれ変わった。それを買うことでお客さまにも社会貢献のチャンスをプレゼントすることができます。そういったESD活動が、

## 「お買い物」が社会を変える

### リデザインプロジェクト（地域循環共生とESD）

#### 入賞者発表会

【日 時】 2017年9月20日（水） 13:00~14:00  
【会 場】 リーフウォーク稲沢サニークート特設会場  
【展 示】 リーフウォーク稲沢サニークート 2017年9月20日（水）~27日（水）AM  
【出席者】 ユニー株式会社10名 企業・団体10名 学校28名 障がい者支援施設18名  
マスコミ（朝日新聞社、中日新聞）10名 事務局3名 言霊1名 80名



22

これからも地域の中で続けられればと思います。

最初はスーパーマーケットという一つの企業がスポンサーだったのですが、そのスポンサーが降りても地域の中でESD活動が続けられるのは地域の市民と企業・学生・障がい者・そして消費者とのパートナーシップの力だと思っています。そしてこれらの活動は、未来の子どもたちが幸せに暮らせる地球環境や持続可能な社会を目指すSDGsを達成するためでもあります。

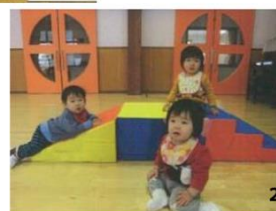
ありがとうございました。

## 「お買い物」が社会を変える

### リデザインプロジェクト（地域循環共生とESD）

#### チャリティーイベント

【日 時】 2017年12月17日（日） 13:00~17:00  
【会 場】 リーフウォーク稲沢リーフコート  
【内 容】 名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校によるゴスペルライブ  
リデザインプロジェクトチャリティーブース  
【寄 付】 寄付額 110,177円 寄付先：陸前高田市 竹駒保育園



24